
特集「京都府立医科大学の看護教育開始から 120 年を経て ～そのはじまりをみつめる～」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院保健看護研究科保健看護専攻
京都府立医科大学医学部看護学科看護学講座

岡 山 寧 子

最近の看護学教育の高等教育化の進展には目を見張るものがある。平成元年、看護系大学が10校余りであったのが、平成21年には180校を越えたからである。この変化があまりに急速であったために、看護系大学における教育とは何か、いかに現場で対応できる看護実践能力を育成するのか、看護師・保健師・助産師教育をどのように展開するのか、学部や大学院での教育・研究の発展のために何をなすべきか等々、多くの課題を抱えながら現在に至っている。今まさに、看護学教育の「模索の時代」といえる。

このような時に、少し時間を止めて先人達の残した足跡を今一度みつめながら、これからの看護学教育を考えることも重要だと思われる。ここ京都でも、これから看護系大学の設置が増え、今までの様相とは変わっていくことが予想される。もともと「看護教育の歴史は京都から」といわれるように、京都は日本でも早い時期から看護教育を行ってきた。中でも、最も早く開始したのは、同志社大学の創立者新島襄が開設した同志社病院・京都看病婦学校で、1886（明治19年）年のことであった。次いで府医学校に附属産婆教習所が誕生し、それから看護婦教習所が附設された。その後も相次いで看護学校が設置され、卒業生達が京都府民の健康を守るための看護活動を実践してきたのである。

昨年、京都府立医科大学では、看護教育が開始されてから120周年を迎えた。それは日本の近代看護教育史の中でも早い時期に設置され、

その後も脈々と、しかも堅実に発展し続けてきた歴史を持つ。卒業生は9000人近くにもおよび、国内・外において広く活躍してきた。

中でも、最近の20年を振り返ると、看護専門学校から医療技術短期大学部、そして4年制の医学部看護学科、さらに大学院保健看護研究科（修士課程）の設置と急成長をとげてきた。しかも学部教育の充実、修士課程での専門看護師コースや博士課程の設置など、看護学教育・研究の発展への挑戦はまだまだこれからの感がある。あわせて、本学のこの成長を支えているのは120年という歴史の重さであることも実感している。この中で培ってきた「心と技術と知識のバランスのとれた看護職の育成」というスピリッツは、本学の看護学教育の基盤となっている。そのスピリッツはどのように生まれ、引き継がれてきたのであろうか。

本特集では、本学の看護教育開始から120年を越えて、そのはじまりを今一度、みつめたいと思う。そのために、まず府医学校附属看護教習所、次いで産婆教習所の草創期の教育について、本学の看護教育史を丁寧に検証されている看護学科の滝下幸栄先生と松岡知子先生に、またその背景となる明治期の看護・助産教育を人文・社会科学教室の八木聖弥先生に執筆いただいた。そして最後に、京都で最も早く看護教育を開始した同志社病院・京都看病婦学校についても紹介する。これらが本学の看護学教育の発展を考える一助となれば幸いである。